

Z会東大進学教室

高1 選抜東大英語

高1 東大英語



1章 関係詞

要点

■ 確認問題 1

解答

彼女は私に住所を教えてくれ、それを私は1枚の紙切れに書き留めた。

■ 確認問題 2

解答

The woman who I thought was your aunt proved

■ 確認問題 3

解答

私は何も言わなかったが、そのことが彼女を不快にさせた。

■ 確認問題 4

解答

The child and his dog that were crossing the bridge were run over by a dump truck.

■ 確認問題 5

解答

What surprises us is how he collects the cards.

■ 確認問題 6

解答

この書類で証明されているように、その犯罪を犯したのはマイクだ。

■ 確認問題 7

解答

We moved to New York, where we lived for seven years.

■ 確認問題 8

解答

Johnson gained what support he needed.

■ 確認問題 9

解答

たとえ起源がどのようなものでも、バレンタインデーには長くロマンティックな歴史がある。

問題

【1】

解答・解説

- (1) ア「彼は19世紀において重要だと思ったすべての科学者の一覧表を作った。」[all the scientists *who* (he thought) *were* important in the nineteenth century だから、主格の関係代名詞が入る。関係詞連鎖。]
- (2) ウ「私はハイカーの団に出会ったが、その中には大学生もいた。」[of の後なので目的格がくるが、先行詞が a group of hikers なので some of whom が入る。]
- (3) ウ「民主主義は、我々が全員よく知っている言葉だ。」[前置詞 + 関係代名詞 (← we are all familiar with the word)。関係代名詞 that は前置詞の前に置くことはできない。]
- (4) イ「私が通っていた学校の校長は、すべての学生が一番よいと考える先生のような話し方はしなかった。」[完成した文の all the students thought の部分をカッコでくくってみよう。関係詞連鎖。]
- (5) イ「ロサンゼルスは私の行きたい場所の1つです。」[the places は visit の目的語なので、関係代名詞の which が入る。]
- (6) イ「私は、彼女の話の中に出てきた場所に行ったことがある。」[speak of ~ で「～について話す」の意味。先行詞 the place は of の目的語なので、関係代名詞の目的格が入る。]
- (7) ウ「自然の諸事実はその通りの姿であるが、我々は自分の心の色眼鏡を通してしかそれを見られない。」
- what ~ are 「現在の～というもの」
 - spectacle 「偏見、色眼鏡」[複数形]
- (8) ウ「繁華街には駐車する場所が少なく、そのことは本当に問題である。」[前節全体を受ける、非制限用法の which]
- (9) エ「天才にはよくあることだが、彼はよく日付を忘れる。」
- as is often the case with ~ 「～によくあることだが」
- (10) ウ「私たちはその土地に詳しくない人には誰にでも道路地図をあげた。」[空所は was not familiar with the country の主語になるので、主格の関係代名詞の働きをするものが入る。]

【2】

解答

- (1) whose (2) whose roof ; roof of which (3) on which
(4) at [in] which (5) that [which] (6) that [which]
(7) that (8) that (9) that [who] (10) what
(11) what (12) for which (13) both of whom (14) which

解説

- (1) 関係代名詞 whose ○ whose native language = their native language

- (2) whose roof = the roof of which [「whose 無冠詞名詞」「the 名詞 of which」の語順をとるのが一般的で「of which 名詞」(この場合, of which the roof)の語順の頻度は低い。]
- (3) 関係代名詞 whom ; which は前置詞の目的語として前置詞の後に置くことができるが、前置詞を関係代名詞と離して文の後方に置く形をとるものもあり、その形では that も用いることができる。 [= The chair which [that] I was sitting on]
- (4) (3)と同様。 [= the restaurant which [that] we had dinner at [in]]
- (5) 「唯一」の意味の修飾語が先行詞を修飾している場合は主に that を用いる。
- (6) (5)と同様に最上級は「唯一」の意味が含まれるので主に that を用いる。
- (7) 前に who ; which などの疑問詞がある場合は that を用いる。
- (8) 先行詞が「人+物 [こと]」の場合は that を用いる。
- (9) 先行詞が「全」または「無」の意味の修飾語を伴う場合は主に that を用いる。
- (10) 先行詞をその中に含む関係代名詞 what。
○ what I am 「現在の私」
- (11) what が「～ところのすべてのもの」 [= all that ; anything that] の意味を含む例。
- (12) 「前置詞+関係代名詞」の非制限用法。 [= , which he paid one million yen for,] [非制限用法のため that での代用は不可。]
- (13) both of whom = both of them と考えると関係代名詞の目的格が来る。
- (14) 前節の一部 (he had met her once) を指す非制限用法の which。

【3】

解答

- (1) My father is *what* we call a self-made man.
- (2) He is clever, and *what* is more, diligent.
- (3) Leaves are to the plant *what* lungs are to the animal.

解説

- (1) ～(3)とも関係詞 what を用いる重要表現。
- (1) what we [you; they] call C = what is called C 「いわゆるC」
cf. what S call C (SがCと呼ぶようなもの)
- (2) what is +比較級「さらに…なことに」
- (3) A is to B what C is to D 「AとBの関係はCとDの关系到等しい」

【4】

解答

- (1) It is said that the number of people who travel [go] abroad is increasing year by year. However, my father, who dislikes [hates] airplanes, has never been abroad.
- (2) The book whose cover is torn is (packed) full of memories of my grandfather. I remember his reading me the book when my parents were out.

解説

(1)

- 「…する人が増えている」 The number of people who … is increasing. ; More and more people are …ing. ; An increasing [A growing] number of people …
- 「…と言われる」 It is said that … ; They [People] say (that) … ; We hear it said that …
- 「飛行機が嫌いな私の父」 関係詞を使う時には非制限用法にして, my father, who … という形にする必要がある。これを制限用法で表現してしまうと, 自分には「飛行機が好きな他の父」もいることになってしまう。
- 「外国へ」 abroad や overseas は副詞なので, × go to abroad などと前置詞は入れない。

(2)

- 「表紙が破れたその本」 所有格の関係代名詞 whose + 名詞の形を使うことができる。
- 「…したのを覚えている」 remember …ing [that S V] という形を使うことができる。ただし, ここでは「祖父が私に読み聞かせてくれた」という意なので, 動名詞の場合は意味上の主語をつける必要がある。
- 「～が出かけている間に」 when ~ is out

【5】**解答**

「全訳」下線部(1), (2)参照。

全訳

ジムは乗りこむ前に躊躇した。その男の外見も話し方も好きではなかった。他の時だったら、彼は「いや、結構です」と断っていただろうが、足が痛かったし、家まで歩くには遠かった。彼は乗りこんだ。大型車は一気にスピードを上げて動き出した。

「あんたが誰かは知っているさ」と、その男はしばらくためらったあとで言った。「(1)あんたがチームにとって重要な人物であることはわかっているさ。あんたが活躍すれば、チームは勝つ。あんたがいなければチームは負ける。簡単な話さ。」その男はポケットに手をつこんで、手の切れるような100ドル札を取り出した。(2)「わかっているだろうが、この金を取り出した所には、もっと金があるんだ」と彼は言って、悪賢い打算的な笑みを急に浮かべた。

注

- ℓ. 2 ○ Any other time 「他の時であったならば」この部分は仮定法過去完了の条件部分になっている。
- ℓ. 3 ○ in a burst of speed 「一気にスピードを上げて」
- ℓ. 5 ○ make a difference 「重要である、影響力がある」
○ With you working hard 「あなたが一生懸命仕事をすれば」これは付帯状況を表す。
- ℓ. 6 ○ as simple as that 「非常に単純である」
- ℓ. 7 ○ bill 「紙幣」
○ more 「もっと多くのお金」この more は名詞。

- where … 「…する所に」 この where は接続詞で, at the place where という意味。
- 0.8 ○ break into ~ 「突然~し出す」 (= burst into ~)
- calculating 「打算的な」

[6]

解答

- (1) (1) **ア** (2) **エ** (4) **イ** (6) **ウ**
- (2) (a) **イ** (b) **エ** (c) **ウ** (d) **ア**
- (3) rights
- (4) 「全訳」 下線部を参照。
- (5) 自分の権利を守るための個人的な抗議 (17 字)

解説

- (1)
 - (1)○ be aware of ~ 「~を意識している」
 - (2)○ give up ~ 「~を手放す」
 - (4)○ at *one's* expense 「~を犠牲にして」
 - (6)○ on the alert 「警戒して, 油断なく見張って」
- (2)
 - (a)○ not only in the abstract sense ~ , *but* also in the concrete sense …
 - not only A but (also) B 「Aばかりでなく B も」
 - (b)○ be sensitive to ~ 「~に敏感である, ~を気にする」
 - (c)○ protest strongly *when* they feel their rights are being diminished [時を表す接続詞 *when*]
 - (d)○ it [to protect his own rights を受ける形式主語]
 - be up to ~ 「~次第である, ~の責任である」
- (3) 下線部(3)の前の部分の rights を指す。
- (4)
 - (5) Even if competition does not come to a head, there is always a feeling of wanting to get a jump on the other guy, which coexists with the worry that someone else may get a jump on you.
 - even if ~ 「たとえ~でも」
 - competition 「競争」 < compete
 - come to a head 「頂点に達する; (吹出物が) 化膿する; (事態が) 危機に陥る」
 - a feeling of ~ 「~という感じ [意識, 印象]」
 - get a jump on ~ 「~を出し抜く」
 - which [非制限用法 (前節の a feeling of ~ を先行詞とする)]
 - the worry that … 「…という心配」 [「同格」の that]
- (5) 下線部(7)は前の文の This sort of individual protest を指し, 具体的には, 自分の権利を守るための抗議を指す。

アメリカ人は自分たちの「権利」を強く意識している。これは、人間の尊厳に対する敬意という抽象的な意味においてだけでなく、時間やお金などという具体的な意味においてもである。たいていの人々と同様、アメリカ人はできるだけ多くの新しい権利を望み、現存している権利を手放すことを拒否する。しかしながら、他人がそれを手に入れる前に、あるいは他人を犠牲にしてまで、自分自身の、あるいは自分の集団のために権利を得ようとするのはアメリカ人の特質である。

このことは、他人が新しい権利を得ようとしていることに人々はとても敏感であることを意味し、抗議や抵抗につながることが多い。アメリカは集団にとっても個人にとっても競争的な社会である。(5)たとえ、争いがひどくならないとしても、他人を出し抜きたいという感情は常に存在し、その感情は他の誰かが自分を出し抜くかもしれないという心配とともに存在している。

アメリカ人は自分たちの権利を妨げるであろうものは何でも常に警戒しており、自分たちの権利が侵されていると感じた時、激しく抗議する。自分自身の権利を守るのは個人の責任であるという感情があり、抗議は「それは私の権利だ」という言葉の下に起こされる。この種の個人的な抗議は日本では好まれないだろう。そのような抗議はアメリカでは賞賛される。自分の権利を守るために常に警戒していなければならないというこの考え、言い換えると、他人が自分を犠牲にして何かを得ているかもしれないという感情は、アメリカに訴訟が多いことの理由の1つである。

注

- ℓ. 1 ○ right *n.* 「権利」
○ in the sense of ~ 「～という意味では」
- ℓ. 2 ○ respect for ~ 「～に対する尊敬」
- ℓ. 3 ○ like ~ 「～のように」
○ as ~ as possible [one can] 「できるだけ～」
○ refuse to *do* 「…することを拒む」
- ℓ. 4 ○ existing 「現存する」
○ it is ~ to *do* 「…するのは～である」〔形式主語の *it*〕
○ characteristically 「特徴的に」 < characteristic
- ℓ. 5 ○ others 「他人」
- ℓ. 7 ○ competitive 「競争的な」 < compete
- ℓ. 11 ○ cut into *one's* rights 「～の権利を妨げる〔減ずる〕」
- ℓ. 12 ○ a feeling that ~ 「～という感情」〔同格の名詞節を導く *that*〕 ℓ. 15 This idea that ~,
ℓ. 16 the feeling that ~ も同様。
- ℓ. 14 ◇ This sort of individual protest would be frowned upon in Japan.
○ sort 「種類 [= kind]」
○ would 「日本であれば…であろう」〔仮定法〕
- ℓ. 17 ○ one of the ~ 「～の中の1つ」
○ reason for ~ 「～の理由」

【7】

解答

A.

- (1) ピエロが病院を訪問するボランティア活動。
- (2) 病気の子どもたちのため。 (3) 心配事がある時。
- (4) 長い間しゃべれなかった子どもが、ピエロに会ったわずか10分後に話し始めた。

B.

- (1) That's interesting, but we are not supposed to talk (very) (loud) at hospitals. When we laugh a lot, doctors and nurses (get) (annoyed), don't they?
- (2) No. It is not just for (fun). Laughing is good for our (health). When we laugh, something like (medicine) is made in our body. It is good to (make) (sick) (people) (better).
- (3) I see. So clowns teach the children (how) (to) (laugh) and the children (feel) (better) when they laugh.
- (4) That's right. And then, they become (stronger) and they don't need much (medicine).

Script

CD 2

A : Kyoko, do you know clowns at clinics?

B : Is it a new movie or something?

A : No. It's a kind of volunteer. Clowns visit hospitals for sick children.

B : That's interesting, but we are not supposed to talk very loud at hospitals. When we laugh a lot, doctors and nurses get annoyed, don't they?

A : No. It is not just for fun. Laughing is good for our health. When we laugh, something like medicine is made in our body. It is good to make sick people better.

B : I didn't know that.

A : Laughing is especially good when we have something to worry about, because it makes us happy. Children at hospitals have a hard time. They can't eat the food they like. They must go through a lot of medical checkups. You know, they feel lonely and afraid.

B : It's sad. Children should laugh and play, but sick children do not laugh very often.

A : Right. Some of them cannot talk when they want to. So doctors think clowns are very helpful. In some countries, they visit almost all the hospitals every week.

B : I see. So clowns teach the children how to laugh and the children feel better when they laugh.

A : That's right. And then, they become stronger and they don't need much medicine. I heard a good story. A child who couldn't speak for a long time spoke just ten minutes after clowns visited him.

B : That's a wonderful story.

全訳

A：京子，病院のピエロって知ってる？

B：新しい映画か何かなの？

A：違うよ。ボランティアの1つなんだ。病気の子どもたちのためにピエロが病院を訪問するんだ。

B：それは面白いわね，でも，病院ではあまり大きな声で話しちゃいけないわ。大笑いしたら，先生や看護師さんが怒るんじゃないの？

A：いや，単なるエンターテイメントじゃないから。笑うことは健康にいいんだよ。笑うと，薬のようなものが体内に作られるんだ。病気を治すのに役立つんだよ。

B：それは知らなかったわ。

A：笑うことは，何か心配なことがある時に特にいいんだ。楽しい気分になれる。入院している子どもたちは辛いからね。好きなものは食べられないし，検査をたくさん受けなければならぬ。寂しくて，怖がっているんだよ。

B：かわいそうね。子どもは笑って遊んだ方がいいのに，病気の子どもたちはあまり笑わないわよね。

A：そうなんだよ。話したいのに話せない子どももいるよ。だから，お医者さんはピエロが役に立って考えているんだ。ピエロが毎週ほとんどの病院を訪問している国もあるよ。

B：なるほど。ピエロが子どもたちに笑い方を教えて，子どもたちは笑うと気分がよくなるってわけね。

A：そうだよ。それから，子どもたちは強くなって，あまり薬がいらなくなるんだよ。1ついい話を聞いたよ。長い間話をできなかった子どもが，ピエロに会ったわずか10分後に，しゃべったというんだよ。

B：素敵な話ね。

注

- ～ or something 「～か何か」
- annoy 「～をいらいらさせる」
- fun 「楽しみ，おもしろみ」〔不可算名詞〕
- helpful 「役立つ，有用な」

2章 比較

要点

■ 確認問題 1

解答

There were fewer than thirty students present.

■ 確認問題 2

解答

You may as well begin to prepare your lessons.

■ 確認問題 3

解答

その地下鉄は昼間は安全だが、夜間は昼間ほど安全ではない。

■ 確認問題 4

解答

No sooner had he gone to bed than he fell asleep.

■ 確認問題 5

解答

彼は非常に印象的に見える書類キャビネットを持っていた。

■ 確認問題 6

解答

I am not in the least concerned about the results.

問題

【1】

解答・解説

- (1) ア 「イタリアの人口は日本の人口のおよそ2分の1です。」
○ half as ... as A 「Aの半分の…」〔倍数表現〕
cf. twice [three times] as ... as A 「Aの2倍〔3倍〕の…」
- (2) ウ 「彼は私より英語を話すのが上手です。」 than ではなく, to を用いる比較級。
superior ; inferior ; junior ; senior の形容詞, また動詞 prefer は to を用いる。
cf. prefer A to B 「BよりAを好む」
- (3) ウ 「この2つのおもちゃのうちで, 彼の子供は値段が高くない方を選んだ。」 二者の間で比較を行う場合の表現に注意。
○ the 比較級 of the two 「二者の方でより…の方」
- (4) ア 「私は思い出せないくらいに長くここに住んでいる。」: 「思い出せるより長く→思い出せないくらいに長く」と考える。
- (5) ウ 「彼は, 子供の歌さえ上手に歌えない。オペラはなおさらである。」
○ much [still] less 「なおさら…でない」 否定文に続ける。

【2】

解答・解説

- (1) as [so], as
○ not as [so] + 原級 + as ~ 「～ほど…ではない」
- (2) as many
○ as many as + 数詞 「(数に対して) …もの多くの」
- (3) as, as possible
○ as ... as possible 「できるだけ…」 (= as ... as + S + can [could])
- (4) any
○ as ... as any (～) 「どれ(誰)にも劣らず…」
- (5) half ; large as ; half, size
○ X times as + 原級 + as ~ 「～のX倍…だ」
○ X times the size of ~ 「～のX倍の大きさだ」
- (6) so much as
○ not so much as ... 「…さえしない」 (= not even)
- (7) not so much ; as
○ not so much ~ as ... 「～よりはむしろ…」
〔= more ~ than ..., ... rather than ~〕
〔= He is more a man of diligence than a genius.〕
〔= He is a man of diligence rather than a genius.〕

- (8) as well as ; am, Not ; you but ; I am
 ○ ~ as well as … 「…と同様に～も, …ばかりでなく～も」 (= not only … but also ~) [これらの語句が主語になった場合の述語動詞の人称・数は, 強調される「～の部分」に一致する。]

【3】

解答・解説

- (1) by, to
 ○ by [「程度・差」を表す前置詞]
 ○ junior to [ラテン語系の比較級は to を伴う。] (⇔ senior to)
- (2) prefer ; to
 ○ prefer ~ to … 「…より～を好む」 [~, …の部分が to 不定詞の場合は「～より」の意味の to の代わりに rather than を用いる。]
 cf. I prefer to wait rather than (to) go at once. (私はすぐ行くより待ちたい。)
- (3) hotter and hotter
 ○ 比較級 and 比較級 「ますます, だんだん…」
- (4) less ; than
 ○ less … than ~ 「～ほど…ではない」 [劣勢比較] [not as … as ~ の形に変えて考えるとよい。]
- (5) the shorter of [「2者のうちで一方がより…だ」という場合には, the 比較級 of the two ~ の形をとる。]
- (6) more ; than [同じ人 [物] について形容詞と形容詞を比較する時は, -er 変化する形容詞でも more 原級 than 原級 の形にする。]
- (7) still [much] less
 ○ 肯定文, much [still] more 「まして…, なおさら…」
 ○ 否定文, much [still] less 「まして…でない, なおさら…でない」

【4】

解答・解説

- (1) The higher we go up, the colder it becomes.
 ○ the 比較級, the 比較級 「～すればするほどますます…」
- (2) I liked the boy all the better for his honesty.
 ○ all the 比較級 for [because] … 「…のためにそれだけいっそう～」
- (3) The man was none the happier because he was rich.
 ○ none the 比較級 for [because] … 「…にもかかわらず少しもより～ではない」
- (4) He knows better than to break his promise.
 ○ know better than to do 「…するほど愚かではない」 [than のあとが原形動詞ではなく to 不定詞であることに注意。]

【5】

解答

- (1) wisest (2) less (3) ウ (4) ウ (5) イ
(6) beautiful as can be (7) second heaviest [greatest, largest]

解説

- (1) wisest 「どんな賢い人でも間違いを犯すことがある。」
○最上級に even が含意されることがある。
- (2) less [fewer] 「彼女の子供が正確に何人かは定かではありませんが、少なくとも 10 人はいます。」
○ at (the) least 「少なくとも」
○ not less [fewer] than 「少なくとも」本問は「数」なので fewer も用いられる。
- (3) ウ 「彼がいつ戻るか、私には全く見当がつかない。」
本問は比較の慣用表現を問う問題。
○ not have the faintest [slightest, foggiest, first, remotest, least] idea 「全く見当がつかない」
- (4) ウ 「夕食として何も塗っていないパンと水しか出されなかった。」
○ other than ~ 「① ~とは違った, ~とは異なる, ② ~以外の」
Ex. I do not wish him other than he is.
(私は現在の彼とは違った彼にはなってもらいたくない。)
It was none other than the king.
(王その人であった (→それは王以外の誰でもなかった。))
- (5) イ 「彼はロンドンでの3日間を十分に活かした。そこで全てを見たことであろう。」
○ make the most of ~ 「~を最大限に活用する」
- (6) beautiful as can be
○ as ~ as can be 「このうえなく~」本問は This landscape is as beautiful as beautiful can be. の様に can の前にも形容詞を置き、その形容詞が臨時的に can の主語のように見えることもある。
Ex. She is as poor as (poor) can be. (彼女はひどく貧乏です。)
- (7) second heaviest [greatest, largest]
○ the second + 最上級 「2番目に最も…」

【6】

解答・解説

- (1) 「全訳」下線部(1), (3), (4)参照。
(1) ○ obvious 「明白な, すぐわかる」
○ a way to do 「…する方法, 仕方」to do は way を修飾する形容詞用法の不定詞。
○ for more babies は to be born の意味上の主語。
(3) ○ the + 比較級 + S' + V' ~, the + 比較級 + S + V …「~すればするほどますます…」

- spend O …ing 「O (=時間) を…して過ごす」
 - prediction 「予言, 予測, 予報」 < predict
 - the human race 「人類」 (= humanity)
 - phenomenon 「現象, 事象」 > phenomena (複数形)
- (4) ○ in + 所有格 + time 「今から～ほど後に, ～もしたら」発話の時点から「あと～ (= 時間) 経ったら」という意味を表す。

Ex. The patient will be able to come out of hospital *in a week's time*.
(その患者は1週間もすれば退院できるでしょう。)

- when は ten or twenty years time を先行詞とする関係副詞。
 - present *adj.* 「現在の, 今の」
 - beyond child-bearing age 「出産可能な年齢を超えて→出産できない年齢になって」
- (2) 1950年に生まれた人の平均予測寿命は45歳であったが, 現在ではそれが世界全体で65歳になり, 国連の予測では50年後には76歳になっていること。

- 代名詞の this は後続の文の内容を指すことができる。
- figure 「数, 数字」

- (3) (ア)出生率の低下 (イ)子供を持つこと〔子育て〕 (ウ)晩婚
(エ)離婚 (オ)小家族化
- (4) (a) and (b) At (c) of

- (a) ○ between A and B 「AとBの間で〔の〕」
- (b) ○ at least 「少なくとも; せめて」

Ex. ○ That will take *at least* a year to complete.
(それは終わるのに少なくとも1年かかる。)

○ You should *at least* listen to him. (せめて彼の話くらいは聞くべきだ。)

- (c) ○ a population of ～ 「～の人口」

Ex. Tokyo has *a population of nearly 13 million*. (東京の人口は約1300万である。)
cf. The city has a large [small] population. (その都市は人口が多い〔少ない〕)。

全訳

19世紀に世界の人口は10億から17億まで増加した。20世紀になると, 世界人口はおおよそ60億まで増えた。現在は6,318,042,422人いる。この統計を理解するには, まず, 人口が増える2通りの方法について考えなくてはならない。

(1)人口増加の最もわかりきった方法は, 生まれてくる赤ん坊の数を増やすことである。もし人口がまったく変動しないとすれば, 平均的な女性の子供の数は2.1人である。この数は「代替率」と言うが, この数字は急速に下がっている。1965～75年のもっとも多い時期で4.9人であったが, 現在は世界全体での代替率は, 2.8である。しかし, 代替率1.6の先進諸国と, 3の貧しい国との間には今も大きな差がある。

現在人口が多いことのもう1つの理由は, 私たちがかつてよりも長生きであるということだ。以下の数字もまた劇的な変化を示している。1950年に生まれた人は, 一般的に平均寿命が45歳であった。現在は平均寿命は65歳であり, 国際連合は50年後には76歳になると予測している。

少なくとも豊かな国では、都市への人口流入は出生率の低下と関係しているように思われる。都市でのほうが子供を持つのにお金がかかる。女性はより良い教育を受け、働くことができるので、母親になることで失うものも多くなる。都市での生活は個人主義を助長するように思われる。つまり、人々は教育を受け、専門的な職業に就くことにより高い関心があるのだ。結婚の時期は遅くなり、離婚は多くなったので、小家族化が進んでいる。

今のところ、同じ傾向がいたるところで繰り返されるのは、あり得ることのようだ。国連のある予測では、2100年には世界人口が50億になると現在見越している。だが、(3)予測を注視する時間が長くなればなるほど、人類とは驚くべき現象であるということに気付くものである。(4)現在の両親世代が子供を持つことができない年齢になる、10年から20年ほど後にどうなるのかについては、いずれははっきりとわかることになるだろう。

注

ℓ. 5 ○ exactly 「正確に；きっかり，まさに」

ℓ. 6 ○ peak 「頂点，最高点」

ℓ. 7 ○ 名詞 + as a whole 「全体として〔の〕～」

Ex. That is true of animals, but also ecosystem *as a whole*.

(それは動物だけでなく、生態系全体に当てはまる。)

ℓ. 11 ○ dramatic 「劇的な，めざましい；芝居がかった」

○ on average 「平均して，概して」

ℓ. 12 ○ life expectancy at birth 「誕生した時点からの平均余命→平均寿命」

ℓ. 14 ○ connect A with B 「AとBを関係づける，AをBと結びつけて考える」

ℓ. 17 ○ encourage ～ 「～を促進する，助長する」 > encouragement *n.*

○ individualism 「個人主義（的行動）」

ℓ. 18 ○ career 「生涯を通しての，または専門的な職業」

Ex. She's decided on a *career* in veterinary medicine.

(彼女は獣医を生涯の仕事にすることにした。)

○ a small family 「小家族」 population と同じで，形容詞は small, large を用いる。

ℓ. 23 ○ have an idea 「分かっている，知っている」疑問文・否定文で使うことが多い。

Ex. Do you *have any idea* (of) what the place is like?

(そこがどんな所か知っていますか。)

【7】

解答

「全訳」下線部参照。

全訳

大学は講義科目を拡充し、宗教以外の科目も含まれるようになった。ハーバード大学では選
択制度を導入し、それにより学生はいくつかの科目を選択できるようになった。メリーランド
州ボルチモアにあるジョン・ホプキンス大学は、高度な研究のために大学院を設立した。

注

- other than 「～以外の」
- elective system 「選択制度」
- whereby 「それによって」〔関係副詞〕
- a graduate school 「大学院」アメリカではじめて大学院教育とゼミナール制度を採用したのは, Johns Hopkins University である。
- advanced studies 「高度な研究」ここでの advanced は「大学での教育よりも進んだ」という意味。

3章 仮定法

要点

■ 確認問題 1

解答

もし彼が正直な人間だとわかっていれば、喜んでそのお金を貸すだろうに。

■ 確認問題 2

解答

「ジャックはパーティーにいた?」「いや、いたとは思わないな。いたら会っていただろうし。」

■ 確認問題 3

解答

I suggested that Ken give up golf.

■ 確認問題 4

解答

もし彼が話すのを聞けば、彼を重要人物だと思うだろう。

■ 確認問題 5

解答

給料がもっと高ければ、ジェイクはその仕事に就くことを考えたかもしれなかったろう。

■ 確認問題 6

解答

日本人ならそのようには振る舞わなかっただろう。

■ 確認問題 7

解答

彼は天文学について何も知らないけれど、まるで知っているかのように話す。

問題

【1】

解答・解説

- (1) were to, become
 - if S were to *do* 「仮にSが…するとしたら」(未来の実現の可能性の低い仮定)
 - become of ~ 「(what, whatever を主語にして) ~はどうなるのか」
- (2) otherwise [or]
 - otherwise 「さもなければ」 [= If I had not started ~] (仮定法過去完了)
- (3) as well, as
 - might [may] as well ... as ~ 「~するなら…するも同じだ, ~するくらいなら…した方がまだ」
 - induce O to *do* 「Oを説き伏せて…させる」
- (4) rather, went [would [had] rather に節が続く場合には that は通例省略され, 仮定法過去が用いられる。「むしろ…したい」の意味。]
- (5) Seen, distance, might [分詞に条件が含まれた仮定法過去の文 [= If the picture were seen at a distance, it might ...].]
 - at a distance 「少し離れて」 *cf.* from a distance (遠くから)

【2】

解答・解説

- (1) But for, contribution (もしもあなたが寛大にも援助してくれなかったら, 我々は仕事を続けられなかったでしょう。)[過去の事実と反する仮定法過去完了の文。/ but for ~ 「~がなければ」 [= without, if it were not for ~ (仮定法過去), if it had not been for ~ (仮定法過去完了)] / contribute → contribution (*v.* → *n.*) の書き換えに注意。]
- (2) Getting, enabled (10分早く起きていたら始発電車に間に合っただろうに。)[Getting up (主語になる名詞節) に条件が含まれた仮定法過去完了の文。/ enable O to *do* 「Oが…することを可能にする」(無生物主語構文)]
- (3) pride in (その母親が頭のいい息子を自慢するのも無理はない。)[may well do 「①…するのももっともだ ②多分…だろう」 / it is no wonder that ... 「…は少しも不思議ではない, 当たり前だ」 / take pride in ~ = pride oneself on ~ = be proud of ~ 「~の自慢をする」]

【3】

解答・解説

- (1) If it had not been *for* your help [if it had not been for ~ 「もし~がなかったら」(仮定法過去完了) / *cf.* if it were not for ~ (仮定法過去) / = without, but for]
- (2) *would* take a walk every morning before breakfast. [would ... → 過去の習慣を表す。 / take [have] a walk 「散歩する」 [walk (散歩する) の名詞表現]]

- (3) might as well see a dentist [might [may] as well ... (as ~) 「(~するよりは) ... する方がよい」]
- (4) You had better not make your feelings obvious [had better not do 「…しない方がいい」(否定語は原形不定詞の直前) / make O C 「OをCにする」]
- (5) One more effort, and he would have done well [名詞句に条件を含んだ仮定法過去完了の文。 / < 条件文・命令文など + and ~ 「…、そうすれば～」(cf. 条件文・命令文など + or ~ 「…、さもないと～」)] (= If you had made one more effort, you would have …)]

【4】

解答・解説

- (1) **イ** (彼がこの前ここに来た時に私は彼に会わなかった。会えたらよかったのに。) [I wish + 仮定法過去完了 (過去の事実と反する仮定) / had (seen him) と補って考える]
- (2) **ウ** (彼が英語を話すのを聞いたら、きっとイギリス人かと思うだろう。) [仮定を表す不定詞の用法 [= If you heard him speak …]]
- (3) **エ** (昨日森に散歩に行った。自然を眺め、楽しい考えにふけるなどしてとても楽しかったであろう時間が、2匹の虫につきまとわれたために台無しになった。) [otherwise 「もしそうでなかったら」 [= もし2匹の虫につきまとわれなかったら] (what might otherwise have been … → otherwise に条件を含む仮定法過去完了の文)]
- (4) **ア** (最近までアメリカ合衆国の女性は、テーブルを選んだり券を手渡したりプログラムを買ったりという、済ませなければならない用事がある時以外は、たいてい男性に先立って部屋や映画館、レストランに入って行った。そのような用事がある際には男性が先行して細かい用を足した。) [unless 「…の場合以外は」 [= except when] / A such as B 「BのようなA」 / attend to ~ 「①~を注意して聞く ②(仕事など)に専心する, 精を出す」 / details 「詳細」]
- (5) **ア** (その時私の忠告を聞いていたら、彼は今頃金持ちになっているだろう。) [then (その時)とあるので、条件節は仮定法過去完了形にする (帰結節は仮定法過去であることに注意)。 / if が省略されて倒置が起きた形 [< If he had taken my advice then, …].]
- (6) **ア** (客は現れなかった。だから我々は結局、あのすべての余分の食べ物を買う必要はなかったのだ。) [needn't have done 「…する必要はなかった (のにした)」 / **イ** 'must + 完了形' は過去時の必然性・推量を表す 「…したはずだ」(通例肯定文で用いられる) / **オ** couldn't have done は過去時の可能性・推量を表す 「…したはずがない」 [⇔ must have done]]
- (7) **ウ** (あなたはあの車をブレーキが壊れたまま運転するべきではなかった。大事故になっていたかもしれない。) [might have done (…したかもしれない [過去時の推量]) とあるので、文脈から shouldn't have driven (運転すべきではなかった [のにした]) → 実現しなかった過去) がふさわしい。]

【5】

A.

解答例

- (1) No, he [she] doesn't.
- (2) It has hardly any atmosphere.
- (3) It has a very thin atmosphere and a severe shortage of water.
- (4) He was a great mathematician.
- (5) He lived in the early nineteenth century.
- (6) He came from Austria.
- (7) He suggested digging very wide ditches in the Sahara, triangular in pattern, and then filling them with petrol or some such substance.
- (8) He suggested building a large mirror to reflect the sun's rays and concentrate them on the surface of Mars, thereby making a vast burning-glass.
- (9) ① For many years, he bombarded it with literature about his plan.
② He sent the government letters about his plan for many years.
- (10) No, he didn't.

解説

- (1) 質問の any life に注意。本文では火星には simple plant life は生息できるかもしれないと言っている。
- (2) 本文ℓ. 6～8 参照。
- (3) 本文ℓ. 8～10 参照。
- (4) 本文では読者が Gauss を知っているという前提で the great mathematician Gauss と the を使っているが、質問の解答としては本文の文脈にとらわれず彼の職業を客観的に述べるのが適当なので a mathematician とするのがよい。
- (5) 本文中で Gauss が提案を行った時期が当てはまるだろう。
- (6) Littrow は Austrian scientist と説明されている。
- (7) なぜこの提案をしたかの理由までを解答すると非常に長くなってしまっているので、とりあえず何をするように言ったかを解答すればよいだろう。
- (8) 本文ℓ. 17～20 参照。
- (9) ②の解答例のように、本文ℓ. 22～23 の解釈に基づいて平易な語で解答してもよい。
- (10) 本文ℓ. 22 の bombard については注を参照。この語はここでは比喩的な意味で使われている。

B.

解答

- (1) (c) (2) (b) (3) (a) (4) (d) (5) (a) (6) (b)
(7) (b) (8) (d) (9) (d) (10) (c)

解説

- (1) fascinating 「魅惑的な, 魅力的な」
(a) interesting 「面白い, 興味深い」はよいが, frightening 「おそろしい」が違う。

(b) amusing は笑いを誘ったり人を楽しませたりする「面白い, おかしい」の意味。exciting は「刺激的な, わくわくするような」, (d) amazing 「驚くべき」, annoying 「迷惑な」は両方とも違う。

(2) exist 「存在する」〔live と同義。〕

(b) be は完全自動詞としての意味が exist と同じ「存在する, 生存する, ある」。

(a) come in 「入る」, (c) find 「見つける」, (d) go out 「出て行く, 外出する」。

(3) obtain 「得る, 獲得する」

(b) make 「作る」。(c) buy 「買う, 購入する」。文脈によってはこれに置き換えられる obtain の使い方もあるがここでは不適切。(d) send 「送る」。

(4) surface 「表面, 外面, 地表, うわべ」

(b) inside 「内部, 内側」 ↔ (d) outside 「外部, 外側」, (a) water 「水」, (c) air 「空気」。

(5) support 「支える」〔物理的, 精神的, 経済的などの場合に使われる。〕

(a) keep up はいろいろな意味で使われるが、「維持する」〔= maintain〕の意がある。

(b) kill 「殺す」, (c) prevent 「防ぐ」, (d) hold down 「(人や自由を) 抑える」。

(6) communicate with 「(文通, 信号などで) ～に意思を伝える, ～と通信する」

(b) make contact with ～ 「～と接触する, ～と連絡をとる」, (a) get to know 「知り合いになる」, (c) attack 「攻撃する」, (d) reach out to ～ 「～に手を差し伸べる, を助ける」。

(7) propose, (b) suggest については注を参照。(c) intend 「意図する」, (d) meant < mean 「意味する」。

(8) ditch 「どぶ, 排水溝」

(d) channel 「溝, 水路」, (a) hole 「穴」, (b) foundation 「土台, 基礎」, (c) well 「井戸」。

(9) reflect 「反射する」

(d) throw back 「投げ返す → 反射する」, (a) soak up 「吸い込む」, (b) shine 「輝く」, (c) take down 「卸す, 下げる」。

(10) concentrate 「集める, 1点に集中させる」

(c) bring together 「集める」, (a) spread out 「広げる」, (b) increase 「増える, 増やす」, (d) shine on 「～を照らす」。

C.

解答

(1) (c) (2) (d) (3) (b) (4) (d) (5) (d)

解説

(1) 本文ℓ. 2～4 参照。知性ある生命体が宇宙にいる可能性を否定していないが、いと断言もしていない意味合いを読み取ること。(a) 絶対に唯一の生命体と断言しているので×。(b) ほぼ確実に唯一の生命体というのは、他にいるかもしれないという意味合いと矛盾する。(c) 本文の意味合いに一番近い。(d) 宇宙に他にも知性ある生命体がいると断言はしていないので×。

(2) 本文ℓ. 7 に the surface temperature is extremely high とある。

(3) 本文ℓ. 8～10 参照。vegetable には動物・鉱物に対して「植物」の意味がある。(c)

本文では動物がいる可能性を完全に否定はしていないが、ほとんど望みが無いといっているのが意味がずれる。(d) 本文の Martians ... have ~ been given up. と矛盾。give up は「あきらめる、放棄する」。

(4) 誰がどこで何をすることを提案したかを把握して判断する。(a), (c)の選択肢は本文中の内容と異なる。(b)は Cros の考え。

(5) 本文最終行参照。(a) 政府が自分のアイディアに目を留めなかった時励まされた, (b) 政府が自分のアイディアに目を留めた時喜んだ, (c) 役人たちが自分の提案に関心を持ったことに驚いた。

全訳

現代の天文学者らが直面している問題のなかでも、おそらくもっとも魅惑的なのは「どこかほかのところに知性ある生命体は存在するのだろうか？」というものだろう。地球はさして重要でない星の周囲を回転している、取るに足りない惑星なのだから、私たちの方で私たちが宇宙で唯一の知性ある生物だと仮定するのは思い上がりであろう。とはいえ、証拠を手に入れるのは困難だ。

特にやっかいなのは、地球の周辺の世界、つまり太陽系の星は、高度な生命体には適していないように思われることだ。月はすぐにも除外されてしまうだろう、大気がほとんどないからである。金星もこれよりましというほどでもない。表面の温度が非常に高く、大気のはほとんどは二酸化炭素である。大気が非常に希薄で水が極端に不足している火星は、単純な植物なら維持できてもおかしくないのだが、動物の発見は期待できそうもないし、ストーリーテラーたちが描き出す魅力的な火星人の姿も久しく語られていない。

無論、これで火星にいると考えられる人々と通信するための素晴らしいアイデアが沸き起こってくるのがやんだわけではない。19世紀初頭、偉大な数学者 Gauss は、シベリアに木を植えることを提案した。火星人がそれを見て、的確な返事をしてくるかもしれないということだった。この提案に続いて、オーストリアの科学者 Karl Littrow は、サハラ砂漠に三角形の大きな溝を掘り、灯油が何かそういった物質をそこにを入れることを提案した。火をつければ、溝は知性ある生物の存在を示す「燃える三角形」を火星の観察者に見せることになるというのだった。これよりさらに面白いのは、1870年代のフランス人作家 Charles Cros の計画だった。Cros は日光を反射する大きな鏡を立てて、火星の表面にその光を集め、巨大な集光レンズを作りたがった。鏡をゆらし、砂を燃やすだけで火星の砂漠上に文字を書くのは実際的なやり方だと Cros は説明した。Cros は長年にわたってこの計画に関する文書をフランス政府に送りつけたが、公式な関心は寄せられず、非常に失望したのだった。

注

ℓ. 1 ○ face ~ (= 人) 「~に差し迫る」 (= confront ~ (= 人))

cf. A new problem *faced* us. (新たな問題が生じた。)

これに対して人が主語で物が目的語の場合、「~に立ち向かう」の意。

cf. Let's *face* the reality. (現実を受け止めよう。)

○ astronomer 「天文学者」 cf. astronaut (宇宙飛行士)

ℓ. 3 ○ suppose that ~ 「~と推測する、~と仮定する」

ℓ. 4 ○ obtain ~ 「~を得る」: 「得る」の意味を持つ動詞には、acquire, attain, earn, gain,

get, obtain, win などがある。

- ℓ. 5 ○ body 「天体」
 - appear to *do* ≡ seem to *do* : appear は客観的事実について述べて「…のように見える」, seem は自分の判断からして「…のように思われる」という含みがある。
- ℓ. 6 ○ rule ~ out [out ~] 「~を除外する, 問題外とする」
- ℓ. 9 ○ there seems ~ 「~があるようだ」
- ℓ. 10 ○ Martian *n.* 「火星人」, *adj.* 「火星の, 火星人の」
- ℓ. 12 ○ supposed 「想像上の, 仮定の」
- ℓ. 13 ○ suggest …ing 「… (すること) を提案する」 suggest 名詞〔動名詞〕か, suggest that 節 (wh 節・句) で使う。suggest to *do* の語法はない。
- ℓ. 14 ○ follow up ~ 「~の後に続ける, ~をさらに付け加える」
 - propose …ing 「… (すること) を提案する」 propose 名詞〔動名詞〕; that 節; to *do* の文型で使える。suggest よりフォーマル度が高い。
- ℓ. 15 ○ fill A with B 「AをBで満たす」
- ℓ. 16 ○ such substance = that sort of substance
 - when lit = when the ditches were lit : when 節の主語が主節 (The ditches would present ~) と同一のため, when 節の「主語 + be 動詞」が省略されている。
cf. When visiting London, I like to travel by bus.
(ロンドン訪問中はバスで移動するのが好きです。)
- ℓ. 17 ○ mind *n.* 「人」特に優れた頭脳の持ち主を指す。
- ℓ. 22 ○ bombard A with B 「A (人) を B (質問, 嘆願など) で攻めたてる」 bombard の第1義は「爆撃する, 砲撃する」。
 - literature 「文献, 論文」

【6】

解答・解説

- (1) If it had not been for the fact that he is a millionaire, she would not have married him.
 - 「~がなかったら」 If it had not been for ~ (仮定法過去完了); without ~; but for ~
 - 「~という事実」 同格節を導く接続詞 that を用いて表す。
 - 「億万長者」 millionaire [billionaire でも可。]
 - 「~と結婚する」 marry ~
- (2) A true police officer wouldn't have given such an explanation.
 - 「単文で」と指定があるので, 主語に条件を含む仮定法過去完了の文で表す。 [= If he had been a true policeman, …]

【7】**解答**

A.

- (1) 120 (2) 坂 (3) カメ (4) 30 (5) 20
 (6) 10 (7) 10 (8) 9 (9) 90 (10) 30

B.

- (1) Mathematics (plays) (a) (significant) (part) in every science, and it is essential in our daily lives.
 (2) Mathematics began when early man wanted to (count) (the) (number) (of) his cattle. He also wanted to find out (how) (large) (his) (land) (was).
 (3) Today we use mathematics when we (buy) (and) (sell) things.
 (4) Many people (regard) mathematics (as) a difficult subject. They believe that (very) (few) people are interested in it.

Script**CD 4**

Mathematics plays a significant part in every science, and it is essential in our daily lives. Mathematics began when early man wanted to count the number of his cattle. He also wanted to find out how large his land was. Early priests used mathematics to make calendars by watching the sun and the moon carefully. Sailors had to use mathematics to find their courses at sea. Today we use mathematics when we buy and sell things.

Many people regard mathematics as a difficult subject. They believe that very few people are interested in it. In fact, mathematics is not so difficult. There are many books about mathematics and they have thousands of amusing mathematic puzzles.

Here is an interesting problem to solve. There is a slope that is 120 feet long. A tortoise climbs 30 feet up the slope in a day. The slope is so steep that he moves back 20 feet while he is sleeping at night. How many days does it take before the tortoise climbs to the top of the slope?

The answer is ten days. Why does this happen? At the end of the ninth night, the tortoise has made a total progress of 90 feet. On the 10th day, climbing 30 feet brings him to the top.

全訳

数学はすべての科学において重要な役割を果たしていて、我々の日常生活でも必須のものになっている。数学は、昔の人間が、自分が持っている牛の数を数えたいと思った時に生まれた。彼は自分の土地の大きさも知りたいと思っていた。昔の聖職者は、太陽と月を注意深く観察して暦を作るために数学を使った。船乗りは、海で自分の針路を知るために数学を使わなければならなかった。今日、我々は、ものを買ったり売ったりする時に数学を使っている。

多くの人は、数学は難しい科目だと思っている。数学に興味を持っている人はとても少ないと思っているのである。実際には、数学はそれほど難しくない。数学に関する本はたくさん

んあり、そこには数学の楽しい問題が何千と載っている。

面白い問題を1つ紹介しよう。長さが120フィートの坂がある。1匹のカメがその坂を1日に30フィート登るとする。その坂はとても急なので、カメは夜眠っている間に20フィート後ろに下がってしまう。カメが坂のいちばん上まで登るのに何日かかるか。

答えは10日である。どうしてそうなるのか。9日目の夜の終わりには、カメは90フィート進んでいる。10日目に30フィート登ると一番上に着くのである。

注

- calendar 「暦, カレンダー」
- sailor 「船員, 船乗り」
- course 「針路」
- subject 「科目, 教科」
- in fact 「実際は, それどころか」
- thousands of ~ 「何千もの~」
- puzzle 「パズル, 難問」
- feet 「フィート」長さの単位。foot の複数形。1フィートは30.48センチ。
- tortoise 「カメ, 陸生ガメ」
- at the end of ~ 「~の終わりに」

4章 接続詞・否定

要点

■ 確認問題 1

解答

一歩誤れば、彼らはともに崖っぷちの向こう側へ落ちてしまうことだろう。

■ 確認問題 2

解答

- (1) 彼らが離婚をして私は非常にがっかりした。
- (2) もし今夜雨になったらどうしようか。
- (3) 一度決心したら、その目標を貫くべきだ。

■ 確認問題 3

解答

人々は積極的に幸福を求めるが、それが見つかることはめったにない。

■ 確認問題 4

解答

あなたはあの山を見ると必ずその美しさに心を打たれる。

■ 確認問題 5

解答

私は聖書の上に手を乗せ、ただ真実だけを話すと誓う。

問題

【1】

解答・解説

- (1) コ 「彼に十分な時間を与えれば、彼はその仕事をする事ができるでしょう。」
○ so long as ~ 「～する限り、～でありさえすれば」〔「条件」を表す。〕
- (2) エ 「彼が家でその課題を勉強できるように、彼女は彼にその本を与えた。」
○ so that ~ might … 「～が…するように」〔「目的」を表す副詞節。〕
- (3) ア 「彼女がどこに住んでいるのか教えてください。」〔tell の直接目的語の名詞節の語順は、where + S + V。〕
- (4) カ 「非常に寒かったが、彼らは火を起こさなかった。」〔「譲歩」を表す接続詞 though。〕
- (5) ケ 「人々が彼女に対してどんなことを言おうと、私は彼女を信用している。」
○ no matter + 疑問詞「どんな…でも」〔「譲歩」を表す接続詞。〕
- (6) イ 「彼は非常に頭がよかったので、30分でその問題を解いた。」
○ so ~ that … 「非常に～なので…」
- (7) サ 「我々は彼が来るまで待たなければならないだろう。」
○ till ~ 「～までずっと」〔「時」を表す接続詞。〕
- (8) ク 「もし彼女が仲間に加わることができたら、我々はとても嬉しいのだが。」〔仮定法過去。条件を表す接続詞 if。〕

【2】

解答・解説

- (1) since 「私が英語を学び始めて10年になる。」
○ since ~ 「～以来」〔「時」を表す接続詞。〕
- (2) whether 「好むと好まないとにかかわらず、私は彼にそうさせるつもりだ。」
○ whether ~ or not 「～であろうとなかろうと」
- (3) Now 「今ではもう彼女は行ってしまったので、彼女がいなくてひどく寂しい。」
○ now (that) ~ 「今はもう～だから、～である以上は」
- (4) that 「食事の前には手を洗うようにとその内科医は主張する。」
○ physician 「医者、内科医」
○ insist that ~ (should) … 「～が…することを要求する、主張する」
- (5) nor 「金持ちが常に幸せとは限らないし、貧乏者が常に不幸とも限らない。」
○ 否定文, nor (助) 動詞 S 「Sもまた～ない」〔語順が倒置される。neither は副詞。〕
○ not always … 「いつも…とは限らない」〔部分否定〕
- (6) and 「もう少し頑張ってみなさい。そうすればそれを終わられるでしょう。」
○ 命令文〔命令文に相当する語句〕, and … 「～しなさい、そうすれば…」
〔One more effort, … = If you make one more effort, …〕

- (7) if [whether] 「この手紙をざっと見て、これでいいかどうか見てくれませんか。」
 ○ if [whether] ～ 「～かどうか」 [see の目的語となる名詞節を導く接続詞。]
- (8) until [till] 「暗くなってようやく彼らは帰宅の途に着いた。」
 ○ it is not until [till] ～ that … 「～して初めて…」 (強調構文)
- (9) such 「彼は非常に走るのが速かったので、私は彼を捕まえられなかった。」
 ○ such ～ that … 「非常に～なので…、…なほど～」

【3】

解答・解説

- (1) no means ; far from [anything but] [= These goods are *not* satisfactory by *any* means.]
- (2) fails [空所に入る動詞は、to 不定詞を目的語にとれなければならない。さらに、「必ず…する」を意味するには、この動詞が否定の意味を含むものでなければならない。この2つの条件を満たす動詞は fail である。]
 Ex. Doctors *failed* to save the girl's life.
 (医者らはその女の子の生命を救うことができなかった。)
- (3) denied [(2) 同様、否定の意味を含む動詞が入る。したがって、問われているのは、「d で始まる動詞で、否定の意味を含み、that 節を目的語に取れるものは何か」ということ。それほど難解な問題ではないが、普段から頭を使って文法問題に取り組んでいないと難しい。]
- (4) too [後続の to 不定詞が否定の意味を表すためには、too を用いなければならない。]

【4】

解答

「全訳」下線部(1), (2)参照。

全訳

もしリップ・バン・ウィンクルが60年の眠りから今日目覚めたならば、驚くであろう。科学のせいで世界は変わってしまった。今日では、超高層ビル、大量の自動車、巨大な道路網、多くのジェット機、宇宙における偉業がある。彼は同じ星で目覚めたとは信じないであろう。(1)彼が現代の家庭をもっとよく見ると、生活をより楽にしてくれる発明品に同じように驚くであろう。今日非常に重要なカラーテレビ、ラジオ、電話、そしてうるさい音を立てるあらゆる電子機器は、奇跡のように思われるだろう。今や我々は科学の時代に暮らしている。(2)だが、科学について多くのことを知っている人はごく少数だ。ほとんどの人は目に見えるものだけしかよく知らない。真の科学者は自分の研究が家庭で応用されることを、ほとんどあるいは全く考えていない。

注

- ℓ. 1 ○ If …は仮定法過去を表す文。
 ○ sixty-year sleep 「60年の眠り」
- ℓ. 2 ○ because of ～ 「～のせいで」前置詞であることに注意。

- skyscraper 「超高層ビル」
- a flood of ~ 「～の洪水, 多くの～」
- ℓ. 3 ○ network of roads 「道路網」
- great achievement 「偉業」
- He wouldn't …は仮定法過去の帰結節。
- ℓ. 4 ○ awaken 「目を覚ます」 (= awake)
- as ~ 「～する時に」
- closely 「綿密に」
- ℓ. 5 ○ make life easier 「生活をより楽にさせる」
- ℓ. 7 ○ Yet 「だが」
- ℓ. 8 ○ very few ~ 「(数が) ほとんどない～, ごくわずかの～」
- much 「多くのこと」この much は名詞。
- be familiar with ~ 「～をよく知っている」
- only ~ 「～だけある」→「～しかない」
- ℓ. 9 ○ have thought of ~ 「～を考えている」
- little or no ~ 「(量が) ほとんどあるいは全く～ない」
- his work being applied 「自分の研究が応用されること」being applied は受動態の動名詞で, his work は動名詞の意味上の主語。

【5】

解答

- (1) 「全訳」下線部(1)参照。
- (2) (2) It is not necessary [It is unnecessary] for you to fear
- (6) It is worth (while) trying to read a good book [It is worth while to try to read a good book]
- (3) 「全訳」下線部(3)参照。
- (4) (4) 自然科学や哲学のような, 馴染みのない題材を扱った本を読めば, もっと本がうまく読めるようになると考えること。
- (7) 良書 (を読むこと)。
- (5) ウ

解説

- (1) (1) ○ thus 「したがって」
 - it is important that ~ (should) … [助動詞 should を用いない場合は動詞の原形 (be ; know) 。]
 - not only A but (also) B 「AばかりでなくBも」
 - help ~ (to) do 「～が…するのに役立つ」
 - increase one's reading ability 「～の読む能力を高める」
- (2) (2) ○ it is ~ for 人 to do 「人が…するのは～だ」
- (6) ○ it is worth …ing / it is worth while to do 「…する価値がある」

- (3) (3)○ make the mistake of …ing 「…するという過ちを犯す」
- suppose that ~ 「～だと思う」
 - skillful 「上手な, 熟練した」
 - unfamiliar 「馴染みのない, よく知らない」
 - subject 「題材, 主題」
- (4) (4) 下線部(3)を含む下線部(4)の直前の内容を指す。
- (7) 文脈から, it = (reading) a good book.
- (5) ここでの term は「専門用語;用語」の意。多義語なので意味を確認しておくこと。
- ア「我々の学園祭は今学期の終わりに開かれる。」
- イ「メアリーは有利な条件でその会社に雇われた。」
- ウ「私は彼が演説の中で用いた専門用語の意味を理解できなかった。」
- エ「ジョンはナンシーとはお互いに行き来する間柄である。」

全訳

もしあなたがもっと本をうまく読めるようになるために読書をしているならば, どんな本や記事でもただ読めばよいというものではない。読む本がいつも自分が理解できる範囲内の本だけでは, 読者として上達しないだろう。自分の理解力を超えている本, つまり理解するために努力を強いられる本を読まなければならない。もし努力をしなければ, 何も習得しないだろう。(1)したがって, 本を上手に読むことができるだけではなくて, どんな本が自分の読書力を高めるのに役立つかをわかっていることが重要である。そのような本は, 自分には難しすぎて理解できないのではないかと心配する必要はない。なぜなら, いくつかの読み方の規則に従って読めば, どんな本でも難しすぎるということはないからである。

(3)もっと上手に読めるようになるのに役立つ本は, 馴染みのない題材に関する本であると思ってしまう誤りを犯す読者もいる。例えば, 科学やあるいは哲学などの本である。しかし, それは違う。

優れた科学書の方が科学とは無関係の本より読みやすいことが時にはある。なぜなら, 科学書の著者は, 読者が科学の専門用語や命題を理解する手助けをし, その主要な論点を述べてくれる技術があるからである。このような助けは小説にはなく, それが小説を読むのを非常に難しくしているかもしれない。悪書を読むこともまた難しい。なぜなら, そのような本の概略をまとめたり, その本の構成を知るのが難しいからである。悪書は読もうとする努力に値しない。なぜなら, 努力の割に何も得るものがないからである。

しかしながら, 良書は読んでみようとすることだけの価値がある。なぜなら, まず第1に, 優れた難しい本を習得する時に生じる読書技術の上達があるからである。第2に, 良書は世界や自分自身のことについて教えてくれるからである。より上手な読み方以上のものを習得できるし, また人生についてもっと多くのことを学ぶこともできるのである。つまり, もっと賢くなれる。情報しか与えてくれない本は単に知識が増えるだけという結果になるが, 良書を読むことであなたは知識が増えるだけでなく, もっと賢明になれるのである。このことは, 人生の偉大で永続的な真実についての理解がさらに深まるということを意味している。

注

- ℓ. 1 ○ you cannot read just any book or article 「どんな本や記事でもただ読めばよいというものではない」 not ~ just any …で「どんな…でも～するわけではない」。
- article 「記事, 論文」
- ℓ. 2 ○ improve 「上達する, 向上する」
- ℓ. 3 ○ books that are beyond ~ (=人) 「～の理解力を超えた本」
- books that will make you work to understand them 「理解するために努力を強いられる本」
- ℓ. 6 ○ fear that ~ 「～ということを恐れる」
- ℓ. 7 ○ follow some rules of reading 「読書のいくつかのルールに従う」
- ℓ. 12 ○ the skill with which scientific authors help you understand … [← scientific authors help you understand … *with* the skill]
- ℓ. 13 ○ state ~ 「～を述べる」
- argument 「論点, 主張」
- This assistance 「この助力」(前文の内容を指す)
- be absent from ~ 「～には欠けている」
- ℓ. 14 ○ outline ~ 「～の概略を述べる」
- ℓ. 16 ○ for your struggle 「苦闘の代償として」
- ℓ. 20 ○ *Not merely* more knowledgeable … *but (also)* wiser 「知識が増えるだけでなく, 賢くもなる」
- ℓ. 21 ○ books that provide *nothing but* information 「知識だけを与える本」
- ℓ. 22 ○ ~, meaning that … 「~, それはつまり…ということを意味している」
- lasting < last 「永続する, 長続きする」

E1JS/E1J
高1 選抜東大英語
高1 東大英語



会員番号	
------	--

氏名	
----	--

不許複製